



生徒支援室だより（第6号）



去る3月6日は二十四節気の啓蟄（けいちつ）でした。

『陽気地中にうごき、ちがまる虫、穴をひらき出れば也』(「暦便覧」より)

啓蟄は冬眠をしていた虫が穴から出てくる頃という意味です。実際に虫が活動を始めるのはもう少し先。柳の若芽が芽吹き、露のとうの花が咲く頃です。春はまだかと待ち遠しい一日一日を過ごしていたかと思えば、もうそんな季節がやってきていました。3年生が卒業し、みなさんも4月には進級して学年が上がります。その前に、今年度の自分を振り返り、4月から始まる新しい年度に向けて、小さくても自分なりの目標を持ってスタートできるよう準備をしてください。

1. 1年を振り返って、そしてつぎに進むために

教科書にも載っている 詩人・茨木のり子さんの詩を紹介します。

知命 茨木のり子

他のひとがやってきて
この小包の紐 どうしたら ほどけるかしらと言う

他のひとがやってきては
こんがらかった糸の束 なんとかしてよと言う

缺で切れいと進言するが 背じない
仕方なく手伝う もそもそと
生きているよしみに
こういうのが生きてるってことの おおよそか
それにしてもあんまりな

まきこまれ ふりまわされ くたびれはてて

ある日 卒然と悟らされる
もしかしたら たぶんそう 沢山のやさしい手が添えられたのだ
一人で処理してきたと思っている わたくしの幾つかの結節点にも
今日までそれと気づかせぬほどのさりげなさで



自分が今日まで生きてきた、生きてこられたのは、節目節目に、まわりの人のさりげない思いやりや支えがあったからだとふと気づかされた、と作者・茨木さんは詠んでいます。そして、私たち自身もまた、誰かにとってのそういう存在であり、「生きている」ということの当たり前のありように私たちが気づかないで生きているのだとはっとさせられます。



みなさんにとって、今年度はいかがでしたか？うまく進んだこともあれば、思うに任せないこともあったでしょう。こんな1年にしたいという、自分の目標にあまり近づけなかったな、という思いのほうが大きいという人も少なくないかもしれません。また、目標に向かって心を傾け、力を尽くしたのにかなわなかったという人も……。しかし、「うまくいかなかった、目標としていたことに及ばなかった、＝ 負け（失敗）」ではありません。とくに昨今、「早く」「効率よく」進むこと（人も物事も）が良いとされがちですが、私たちが生きていく中では、決してそうとばかりはいえません。目標や夢までの道を「早く」「効率よく」進むことが大切なのではなく、「どのように」進むか、進もうとしたかこそ意味があると思います。また、「うまくいかないとき、誰かが声をかけてくれた」「思うに任せないとき、そっとしておいてくれた」と、そんなときだからこそ、それまで気づけなかったことにはっと気づけることもあります。

挫折や困難を前に立ち止まり、もがき、ときに遠回りしたりしながら進もうとする、そして、一人で生きてきたのではないことをちゃんとわかっている、そんな姿が貴いのだと思います。

2. 春休み中も相談室へどうぞ♪

3月23日から春休みです。春といえば、別れがあり、旅立ちがあり、そして始まりでもあります。4月から新たな気持ちで学校生活をスタートさせられるよう、体も心もリフレッシュさせて、じゅうぶんに充電してください。春休み中でも、相談したいことや、心配なことがあればいつでも相談室へどうぞ。相談以外にも、話したいこと、気持ちがもやもやすることがあれば、気軽に来てくださいね。待っています。

教育相談の申し込み方法

ア、メールアドレスに「相談したい」とメールを送る（学年・クラス・氏名を忘れずに）。

相談メールアドレス : tako_soudan_ijime_nayami@yahoo.co.jp



イ、教育相談室に来室する。

ウ、担任の先生や保健室の先生、図書館の先生、その他、頼みやすい先生を通じて申し込む。



来年度も引き続き、南紀若者サポートステーション、そしてスクールカウンセラーの先生が来る予定になっています。予定はまだ決まっていますが、決まり次第、みなさんにお知らせします。

